

城上幼稚園だより

すくすく

「山と川と人とつながるたくましい子ども」

令和6年11月20日(水)発行

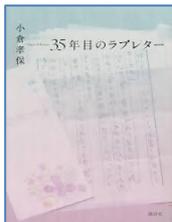
TEL 30-2155

拡大版「親子20分間読書」運動～本がひろく わたしの未来～

園長 米丸 寛之

子どもの家庭での居場所づくり・絆づくりを目的に今年度進められている「親子20分間読書」運動ですが、今月のこのコーナーは、保護者の皆さんにぜひお薦めしたい本を紹介します。

本のタイトルは小倉孝保著の「35年目のラブレター」です。令和6年10月31日付けの南日本新聞の南風録で紹介され知りました。以下、南日本新聞南風録の記事を一部転記します。



今年米寿を迎えた奈良県の西畑保さんは64歳で夜間中学に入学した。読み書きができずに差別を受け、劣等感を抱き続けてきた。苦難の人生に寄り添った妻への感謝の手紙を書きたいと願ったからだ。

貧乏なため泥棒扱いされ、2年生で小学校に行かなくなった。自分の名さえ書けないことを隠して35歳で結婚した。妻はそれを知り目を潤ませた。「ずっと、つらい思いをしてきたんやろな」。

心に染みる歌があったという。西田敏行さんの「もしもピアノが弾けたなら」。もし読み書きができたなら、思いの全てを手紙に書いて妻に伝えるのに。文字を覚えた

西畑さんは手紙を書いた。結婚から35年が過ぎていた。4通目は妻の棺に納めた。20年かけて卒業して言う。「妻に救われ、夜間中学に助けられた」。学びに遅すぎることはないのだ。そう教えていただいた。



早速購入し読みました。南風録の結びに書かれてある「学びに遅すぎることはない」ということと同時に、辛いことはありながらも素直な心や感謝する気持ち、夢を持ち続けて、たくましく生きていくことの大切さも教えていただきました。特に、妻へ感謝の思いを伝えるために…ということに関しては、私自身、果たして感謝の思いをしっかりと伝えることができていたのだろうか、これまでの人生を振り返り、そして、残された人生の中でしっかりと伝えていかななくてはと考えさせられました。

もし、お時間があったり、どんな本を読もうか迷ったりしてしまいましたら、ぜひ、この本を手にとられて読んでみてください。

なお、この「35年目のラブレター」は、令和7年3月に、笑福亭鶴瓶さんと原田知世さんを主演に全国の劇場で公開予定となっています。

○ 新ALT：マドレーン・ボン先生の紹介

9月から新ALTとして英語の授業をしてくださっているマドレーン・ボン先生の自己紹介です。笑顔がステキで、園児たちは毎回の授業をとっても楽しみにしています。



こんにちは、皆さん！私はマディーと申します。新しいALTとして

働いています。8月に来てから、毎日がとても充実しています。軽自動車ですら鹿兒島をたくさん探検し、九州の阿蘇国立公園に行き、東京にも行ってきました！中でも印象に残っているのは、薩摩川内の花火大会や綱引き大会です。皆さんがとても温かく迎えてくださり、本当に嬉しく思います。子どもたちに英語を教えたり、地域の方々と交流したりするのを楽しんでいます。地域の一員として迎えてくださり、ありがとうございます！これからよろしくお祈りします。

出身地：イギリス、ロンドン 年齢：23歳

日本で好きなこと： 蘭牟田池でのパドルボード、トンカツを食べること、西方ビーチでのんびりすること、そして温泉に行くこと！

Many thanks, Maddie

